

### みんなの夢を実現するためのファクトリー

少子高齢化を背景として、地域で生活する方々のつながりや連帯が今後ますます求められています。地域の輪、コミュニティをどのようにつくっていくかは、大きなテーマです。

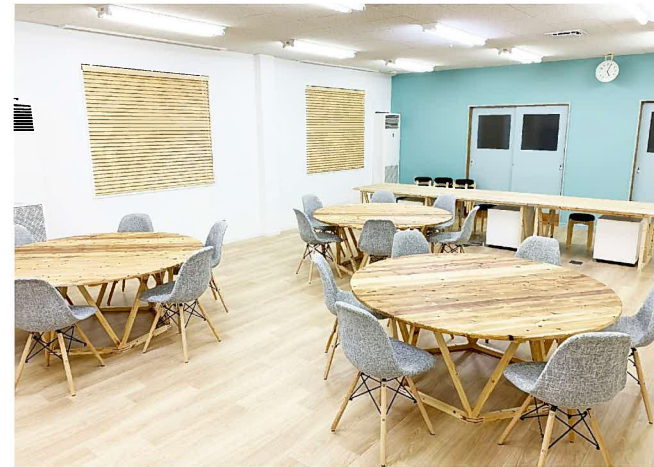
豊かな自然や、ほのぼのとした雰囲気、伝統ある社寺などの地域資源を活かしながら「三ヶ根駅周辺エリア」をどのようなまちにしてゆかかを構想するプロジェクトがはじまりました。しかし、集まって相談をするにしても、拠点が無い、居場所が無い、打ち合わせするスペースが無いという問題が生じました。

そこで、気軽に立ち寄って、みんなでお話ができるようなスペース、「まちの縁側のような空間」をつくるということになりました。居心地のいい空間に集まると、きついいアイデアが浮かび、やる気も沸いてきます。人が集まってくると何かがしたくなるのではないのでしょうか。

どういった空間がよいのだろうか、学生たちと相談をしながら計画を行いました。ワークショップができる木のラウンドテーブル、子育て中のお母さんたちが来くなるようなカフェっぽい雰囲気、手作り感、なるべく地域の材料を使えるとよいのでは などのアイデアが出されました。

6人から10人がお話をできるようなラウンドテーブル（円卓）を3台配置し、プロジェクターやホワイトボードを活用してワークショップが行えるような空間を計画しました。リラックスできる、カフェのような雰囲気にしようということで、北欧のテイストを加え、やわらかさのあるインテリアコーディネートとしました。「ディスカッションをするためのテーブルとして、ほどよい大きさや高さとはどんなものだろうか？」など、様々な検討項目についてディスカッションを重ねて決めました。

子どもさん、学生、お父さん、お母さん、シニアのみなさんまで、地域のみなさんが気軽に立ち寄れる場になり、コミュニティ形成の一助になればと思います。また、常駐する職員とともに、エリアの未来をユニークに展開できる拠点として活用していただき、素敵な三ヶ根駅とその周辺のまちづくりが進むことを期待します。



テーブルやデスクは、国産の木材を活用して制作しました。テーブルの脚の部分は愛知県産のヒノキ材、天板は国産のスギ材です。窓のブラインドも木製としました。



三ヶ根コミュニティ 外観



住民の皆さんと学生のワークショップ



インテリアの検討（模型）



連続させた活用もできるデスク



杉と松のデスク



杉と松のラウンドテーブル




制作に参加した教員と学生



愛知産業大学モデリングスタジオでの制作



完成して、ほっと一息 ^^



スペースの名称は、「未来会議」にちなんで、「幸田町 三ヶ根駅エリア 未来工房」としました。みんなで、これからのまちを創りだすための工房のような場所になればと思います。

看板に用いたロゴは、「列車の車輪や歯車」、「みんなで話し合うためのラウンドテーブル」のイメージから、円をモチーフにしました。三ヶ根山を想起するような山並みの絵柄や周囲の山々の緑の色彩を基調にしています。楽しい雰囲気を感じられるよう、色とりどりの文字としました。